

URL [www.the-miyanichi.co.jp](http://www.the-miyanichi.co.jp)

MAIL [m-style@the-miyanichi.co.jp](mailto:m-style@the-miyanichi.co.jp)

# 社会インフラを支えたい

システムエンジニア 岡 信太郎さん



い。人のため、地元のためという思いで取り組んでいる」と語る。

IT関係の仕事をしてきたことのある母親は趣味もパソコンだったため、幼いころから自宅には最新機器がそろっていた。ネットをしたり、ゲームをしたりと自然とコンピューターに親しみ、宮崎市の佐土原高情報技術科に進学。プログラミングなどの実践技術を身に付けていった。

出身だったので自信が持てなかった」こともあって人一倍勉強に打ち込み、テスト期間は人より早く図書館にこもった。努力が実り、首席卒業にあたる「稲盛学生賞」を獲得し、大学院へ。

中途採用をしている企業を探し、現在の会社を受験した。採用試験は面接のみで、経歴や故郷への思いをアピール。「社長が『社員は家族』」若くてもやりたいことがあればバックアップしたい」と熱く語ってくれた。「このまま」という気持ちで飛び込んだ」と振り返る。

その間も、「高卒、大卒で既に現場で働いている人たちとの実践経験の差を少しでも埋めたい」と、鹿児島市内のIT関係企業でプログラマーのアルバイトに励んだ。

官公庁向けの情報管理システムを主製品としているMJC(宮崎市霧島2丁目、川崎友裕社長)のシステムエンジニア、岡信太郎さん(27)は入社2年目。「お客さんの仕事を少しでも効率的に、楽にするお手伝いをした

好きなコンピューターの世界で生きていきたい」とシステムエンジニアを目指し、鹿児島大工学部に入学。「実業系高校

大学院を終え、念願のシステムエンジニアとして市内のウェブ制作会社に就職。充実していたものの、宮崎のことが頭から離れなかったという。「高校時代に野球部で甲子園出場を果たした時、たくさんのお客さんや応援をもらって感謝でいっぱい

大学院を終え、念願のシステムエンジニアとして市内のウェブ制作会社に就職。充実していたものの、宮崎のことが頭から離れなかったという。「高校時代に野球部で甲子園出場を果たした時、たくさんのお客さんや応援をもらって感謝でいっぱい

いつか自分の開発したシステムが社を代表するものに育ち、社会インフラを支える日を夢見る。「時期によって出張も多くなり忙しい日々が続くが、やり応えがある仕事なのは間違いない」と話す。(文化部・草野航)



クライアントの要望を細かく確認する岡さん。高い聞き取り能力を求められる